

## 建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

地域景観の新しいイメージを形成

# Mアパートメント

敷地は地域のシンボルである二宮神社と向かい合う角地である。単身者用住宅(8戸)と食品販売店舗(2戸)からなる木造平屋の建物である。格子状の通路で区切っていった建物ボリュームが十分な広さの土地に規則的に配置されることで、敷地一帯が統一した街並みのような景観を生み、新しいイメージを形成したといえる。

北道路に面した神社鳥居側にオープンスペースのある店舗を配置することで神社境内と連続性のある溜まりの空間を生みだした。また、西道路側の共同住宅はスリット状の開口部を設けた壁面を強調したデザインとすることで、近隣と居住者のプライバシーに配慮しながら生活が垣間見える面白さがある。

居住スタイルとしての試みも興味深い。全住戸が奥にプライベートな専用庭を持つ。歩道から路地裏のように連続し建物全体に巡らせた動線空間は、外部か内部なのか曖昧で、共用廊下として機能するところもあれば、サンルームとして各住戸に取り込まれている部分もある。居住者同士の新たなコミュニケーションも生まれ、それぞれが生活を楽しんでいる様子が覗えた。将来は高齢者用共同住宅への転用も視野にあるそうだ。未来の共同生活への新しい一歩につながったといえる。(藤本 香)

建築主：三山 正夫

設計：岩田伸一郎建築設計事務所

施工：株式会社DAISHU

所在地：船橋市三山7丁目1-1



西側からの鳥瞰



住戸内観

(撮影/新澤 一平)

9

## 建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

歴史的な建造物の再生と活用

# ワーズワース佐原店

地域住民の熱意が実り、文化庁の重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた佐原。修理修景の実績がようやく建築群を構成する町並みとなって再生が軌道に乗った矢先の東日本大震災。直後に訪れた佐原の町は、伝統的建造物の大半で、瓦が落ちたり土蔵の壁が崩れたりと大きな被害を受け、惨憺たる状況であった。

推薦建物も、経年による老朽化に加えて、今回の被災で倒壊の危険性が生じ、所有者は建物の解体を強く希望していたという。住民団体、行政が解体を食い止めたいと積極的に働きかける中、幸いにも新しい引き受け手(住人)が現れ、店舗併用住宅として見事に再生された事例。

工事は、昔の面影を残している「伝統的建造物」に選ばれている主屋(明治10年)と土蔵(明治17年)以外の後の時代に増築した部分を全撤去、保存建物の大がかりな破損個所の修理、構造補強が行われた。主屋と土蔵の間には客席と厨房を修景改造、この上部にはベランダを設置するなど、暮らしに必要な機能も伝建地区のさまざまな制限がある中でうまく解決されている。外観は復元を基本として修理され、内部は古材を活かしたモダンなレストランに蘇った。建物所有者、市民団体、職人、それを支える行政が一体となり、再生と活用に取り組んだ好事例として評価された。(夏目 幸子)

建築主：篠塚 光教

設計：サンライト設計事務所  
+空間香房ハートリ

施工：株式会社サンライト建設

所在地：香取市佐原491-1



空家を新たな所有者が店舗併用住宅として修理しスパゲッティ店として生まれ変わった。



小野川沿いのガス燈風照明と調和し、柔らかな雰囲気包まれる。